



セヘヌザム著  
何禮之譯  
民法論綱  
卷五

3

和装本

711  
850  
5





保  
7850  
5

民法論綱卷之五

何禮之譯

第五回 服役ノ權利及ヒ之ヲ得ルノ法則

物件ニ次キテハ當ニ服役ノ分配ニ論シ到ルヘシ蓋  
 シ服役ノ事タル財産ノ一種ニ屬シテ時トシテハ物  
 件ト混全シ時トシテハ相離レテ全ク獨立スルモノ  
 ナレハナリ  
 服役ノ品類ハ必ス一定ノ人ニ一定ノ福利ヲ得セシ  
 メンカ爲メ或ハ一定ノ患害ヲ防カシカ爲メニ有用  
 的ノ事務ヲ爲スノ方法各異ナルニ從テ相生スルモ

民法論綱

卷之五

丁

ノナリ

夫レ彼此服役ヲ交易スルハ正シク人類ノ交際ヲ成  
 ス所ノ淵源ニシテ或ハ自由ノ服役トナリ或ハ強促  
 ノ服役トナリ其品相同シカラサルモ而モ法律ニ於  
 テ要求スル所ノ服役ハ單ニ其權利トナリ義務トナ  
 ルニ在リテ若シ我レ他人ノ服役ヲ得ルノ權利アレ  
 ハ其人ハ乃チ我レニ對シテ復タ服役スヘキノ義務  
 アリ蓋シ此二者ハ適ニ容接シテ相離レサルモノナ  
 リ  
 今ヤ服役ノ淵源ニ追溯スルニ其初ハ一トシテ自由

ノ意ニ出テサルハナカリシカ後世法律ノ制定アリ  
 テヨリ其斡旋ニ依テ漸ニ其自由ナル服役ノ中ノ重  
 要ナル者ヲ變シテ人為ノ權利トナセシモノナリ譬  
 へハ婚禮ノ制度ノ如キ當初ハ單ニ男女ノ間ニ存セ  
 ル樂從ノ配偶ニ過キサリシモ今日ニ至リテハ終ニ  
 法律上ノ義務ト變シテ秩然夫婦父子ノ倫常ト為ル  
 カ如キ是レナリ加之ナラス或國ニ於テハ貧民ヲ扶  
 持スルヲ以テ人民一般ニ法律上ノ義務トナサシム  
 ルモノアリ又之ヲ以テ人民ノ自由ニ任シテ敢テ義  
 務ト為サシメサルモノアリ

斯ノ如キ政事上ノ義務ヲ將テ之ヲ全ク人倫上ノ義務ニ比較スルハ恰モ廣大ナル公有地面ニ於テ別ニ一圍ノ藩籬ヲ設ケテ一種ノ草木ヲ樹藝シ故ヲニ之ヲ培養シテ夫ノ籬外ノモノヨリモ其果實ノ美ナラニテ欲スルモノ、如シ藩籬ノ内外ニ在ルモノ固ヨリ全一ノ草木ナルヲ以テ籬外ニ在ルモノト雖モ苟モ一定ノ約束ヲ設ケテ之ヲ保護スルハ敢テ生長セサルノ理ナキモ然レモ特ニ其結果ノ日ニ至テハ之ヲ法律ノ藩籬中ニ入レ衆力ヲ以テ保護スルモノ、更ニ無難安穩ナルニ若カサルナリ

然リト雖モ又制法者ノ如何ニ斡旋ノ力ヲ盡スモ終ニ其掌握ニ置キ能ハサル所ノ服役アリ制法者ハ此等ノ服役ニ於テ竟ニ其意義ヲ辨明シ能ハサルカ故ニ之ヲ管理スルヲ能ハス若シ或ハ之ヲ約束スルカ如キ片ハ徒ニ其性質ヲ變シテ弊害ト爲リ或ハ法律ノ作用ニ頼リテ之ヲ掌握セント欲スレハ假令幾多ノ選卒ヲ置キ嚴密ノ刑罰ヲ施スモ終ニ其効驗ヲ得サルノミナラス却テ大ニ社會ヲ驚擾スルノ患アルヲ免レサルヘシ蓋シ法律ノ勢力ハ原ト人心ノ乖離ヲ挽回スヘキ作用ヲ有セス又ソノ意中ニ潜伏スル

處ノ氣力ヲ發作シテ之ヲ實業ニ施設セシメ能ハス  
 又夫ノ艱難ニ戰ヒ克テ奮進シ主將ノ命スル步驟ヲ  
 超來スヘキ勇敢ノ氣ヲ具セサレハナリ  
 此一點ニ於テ法律ノ完全ナラサル所ヲ補足スルハ  
 獨リ道義ノ法即チ人倫ノ法ナル一種ノ追加律アル  
 ノミ此法律ハ固ヨリ人為ノ律書上ニ其明文ヲ認ム  
 ヘカラスト雖モ自ラ人心風俗ノ中ニ浸潤シテ人為  
 ノ法律全ク其作用ヲ盡クシテ效驗ナキニ至テ始メ  
 テ其運行ヲ顯示スルモノナルカ故ニソノ命シテ勤  
 メシムル所ノ義務及ヒソノ賦シテ任セシムル所ノ

服役ハ皆チ公平仁勇廉耻愛國心等ノ美名懿徳ト為  
 リテ敢テ直接ニ法律ノ力ヲ借用スルト無ク單ニ賞  
 罰褒貶ノ由テ出ル處ヨリ其作用ヲ湧出スルモノナ  
 リ抑此追加律道義人倫ノ法律上ノ義務ハ人為法ノ形貌  
 ヲ假粧セサルニ因リテ能ク之ヲ履行スルキハ其功  
 績ハ人為法ニ於ルヨリモ殊ニ顯明赫奕ナリト是  
 レ道義人倫ノ軌道ニ於テハ名譽ナル一物アリテ其  
 功用甚々著大ナルカ故ニ頼テ以テ人為法ノ虧缺ヲ  
 補足スルニ綽々トシテ餘裕アレハナリ  
 茲ニ道義ノ論ヲ擱キテ再ヒ法制ニ就テ之ヲ見ルニ

民法論

卷之五

三

信託

各種ノ服役ニ於テ其最モ重要ナルモノハ他人ノ為  
 メニ巴カ福利ノ一部ヲ放棄スルノ一事是レナリ  
 夫レ文明社會ニ於テ凡百ノ用ヲ為スニ最モ便且利  
 ナルモノハ貨幣ニシテ即チ天下ヲ通シテ物價ヲ表  
 スルノ定度タリ故ニ服役ノ事ヲ論スルニ臨ミテハ  
 其論必ス此物件貨幣ノ論ニ混交セサルヲ得サルナリ  
 服役ニ二種アリ其一ハ命ヲ下ス人ノ利益ノ為メ  
 之ヲ要求スルモノニシテ其二ハ之ニ順フ人ノ利益  
 ノ為メニ要求スルモノナリ第一ハ即チ主人ノ從者  
 ニ於ル第二ハ即チ後見人ノ幼者ニ於ル是レナリ

主從及後見人幼者ノ二倫ハ即チ一切他ノ諸倫ノ由  
 テ生スル所ノ淵源タルカ故ニ之ニ屬スル所ノ權利  
 モ亦一切他ノ諸權利ノ由テ立ツ所ノ原行トナル可  
 シ  
 父ノ子ニ於ル夫ノ妻ニ於ル時トシテハ其後見人ト  
 ナリ時トシテハ其主人ト為ラサル可ラス蓋シ此等  
 ノ義倫ハ即チ一家ノ小社會ヲ構造スル所以ナルカ  
 故ニ之ヲ恒久不易ノモノトシテ其期限ヲ定ムルヲ  
 要セスソノ各人ニ屬スル所ノ權利ニ至リテハ之ヲ  
 下編ニ論スヘシ

官民二者ノ其國ノ政事ニ竭ス所ノ服役ハ此他一種ノ義務ニ屬スルヲ以テ宜シク國憲ヲ以テ之ヲ限定ス可シ然リ而メ此公私ノ定倫ノ外ニ忽チ生シテ忽チ止ミテ始終一定セサルモノアリ此等ノ服役ニ於テハ法律ヲ以テ一私人ノ為メニ他ノ私人ニ義務ヲ盡サシムルヲ得ヘシ

此等ノ服役ヲ得ヘキ法則即チ制法者ヲシテ人民ノ為メニ服役ノ義務ヲ造為セシムル所ノ原因ヲ區分シテ三類トスヘシ第一殊勝ノ需要第二要償ノ服役第三契約是レナリ今此三類ノ節目ヲ論スル左ノ如シ

第一 殊勝ノ需要即チ服役ヲ受ルモノ、為メ

ニハツノ必須ナルハ服役ヲ為スモノ、不利ヨリモ著大ナル

私人カ各其福利ニ拮据スルヲ以テ通常ノ勤務トナシ致々トシテ相懈ラサルハ法律上ヨリ之ヲ見ルモ需要上ヨリ之ヲ見ルモ俱ニ齊シク重要缺ク可ラサル所タルヲ以テ若シ此原理ヲ顛倒シテ他人ヲ愛重スルヲ自身ヲ愛重スルヨリモ更ニ太甚シキモノトセハ其結果ハ將ニ笑フヘク恐ルヘキノ禍害ヲ招ク

ニ至ルハ必然ナリ然レモ又已カ福利ノ輕且小ナル  
 モノヲ殺キテ之ヲ他人ノ福利ノ大且重ナルモノニ  
 移スヘキノ機ナキニアラス譬ヘハ若シ禍患ノ他人  
 ノ身ニ墜落スルニ方テ之ヲ扞禦スルニ我一人ヲ舍  
 テ他ニ倚頼スヘキモノナキカ如キ時ハ直ニ其人ノ  
 為メニ之ヲ扞禦スルヲ以テ法律ノ當然我ニ要求ス  
 ル所ノ義務ト為シテ可ナリ又法律ニ於テ其義務ヲ  
 要求スヘキ條理アルニ方テ若シ我レ漠然トシテ之  
 ヲ顧ミサル時ハ則チ我レヲ見テ罪ヲ犯セル者トナ  
 スモ敢テ妨ケナシトス但シ此罪ハ其當サニ務ムヘ

キヲ務メサルニ成ルカ故ニ之ヲ稱シテ消極ノ罪ト  
 為シ以テ夫ノ自ラ造意シテ禍害ノ原因ト為ル所ノ  
 積極ノ罪ト區別ス可キナリ  
 都テ約束制限ノ事ハ之ヲ履行スヘキ人ノ苦難タラ  
 サルモノ無シ故ニ他人ノ為メニ其心カヲ使役スル  
 ハ縱令其事如何ニ輕且少ナラシムルト雖モ亦其人  
 ノ苦難タルヲ免ル可ラス況ヤ今之ヲ強迫シテ一定  
 ノ服役ヲ為サシムルノ更ニ苦難ナルニ於テヤ固  
 ヲリ言ヲ待サル所ナリ然ルヲ以テ若シ自己ノ利益  
 ノ為メニ謀リテ他人ニ一定ノ服役ヲ要求シ而ノ又



條理ニ背反セザランコトヲ欲セハ須ラク我カ他人ノ  
 服役ヲ得サル苦難ノ重且大ナルハ迫カニ他人ノ我  
 レニ服役ヲ為ス苦難ノ輕且少ナルニ超過シテ寧ロ  
 他人ニソノ福利ヲ棄テシムルハ我カ福利ヲ達スル  
 ノ便利ニ若カサルコト判然トシテ其間ニ一點ノ疑ヲ  
 容ル可ラサルヲ要スルノ外更ニ其區域ヲ定ムヘキ  
 法則ナケレハ唯法官タル者能ク彼此ノ苦樂利害ヲ  
 審察熟慮シ其情實ニ從テ之ヲ判斷スルアルノミ  
 サマルチンノ善士ハ創ヲ負フタル旅客ヲ助ケテ之  
 カ為メニ却テ己カ性命ヲ救フコトヲ得タリ是レ全ク

德義ノ美學ニ出シモノニテ之ヲ道義上ノ義務ト稱  
 シテ可ナリ敢テ問フ人爲ノ法律ヲ制定シテ斯ノ如  
 キ德行ヲ以テ法律上ノ義務トナサシメ得ヘキ耶曰  
 ク否ナ其間ニ許多臆定ノ變則ヲ加フルニアラサレ  
 ハ之ヲ以テ法律上ノ義務ト爲シ得可カラズ譬ヘハ  
 外科醫師カ非常ノ災難アルニ方テ多數ノ傷者ヲ治  
 療シ陸軍士官カ駐守ノ戦地ニ赴クニ方テ途上来襲  
 ノ敵兵ヲ撃破シ或ハ一家ノ父タル者カ其子ノ危急  
 ヲ救フ等ノ行為ノ如キ普通ノ法律ヲ以テ之ヲ治理  
 シ能ハサルモノ是レナリ

此殊勝ナル需要ノ原理ハ即チ一端ナラサル義務ノ  
 由テ生スル所ナリ夫ノ人ノ父タル者ニ命シテ其子  
 ニ盡サシムル所ノ義務ノ如キハ固ヨリ父ノ為メニ  
 ハ頗ル苦難ニ属スヘシト雖モ然レ之ヲ其子ヲ棄  
 テ顧ミサルニ由テ所生ノ患害ニ比スルハ之ヲ教  
 育スルノ苦ハ極メテ微クタルモノナリ又國家ヲ防  
 禦スルノ義務ハ人民ノ苦難ナリ然レ之ヲ防カサ  
 レハ其國忽チ滅亡シテ人民ノ苦難ハ更ニ之ヨリ大  
 ナルモノアリ租税ヲ輸納スルハ人民ノ苦難ナリ然  
 レ之ヲ納メサレハ以テ政府ヲ維持ス可キナク政

網其紐ヲ解キテ无法ノ國ト為リ終ニ舉國ヲシテ罪  
 惡ノ流行スル淵藪ト為サシムルニ至ルヘシ皆チ全  
 一理ナリ  
 凡ソ服役ノ義務ヲ課定スルニハ必ス先ツ特殊ノ情  
 實ヲ審考シ特殊ノ地位ニ在ル人ヲ撰ミテ之ニ擔當  
 セシムルヲ要ス蓋シ其人特殊ノ情實アリ特殊ノ地  
 位ニ居ル時ハ必ス他人ニ比スレハ服役ノ義務ニ任  
 スルノ性情更ニ深切ナルヘキヲ以テナリ譬ヘハ幼  
 孤ノ為メニ後見人ヲ命スルニハ之ヲ他人ニ托セン  
 ヨリ寧ロソノ親族朋友ニ命スルニ若カサルカ如シ

民法論綱

何氏藏板

是レ其親族朋友ナルヲ以テ其義務ノ苦難ヲ感覺ス  
ルヲ自ラ他人ヨリモ輕且少ナルカ故ナリ

第二 要償ノ服役即チ先ニ服役ヲ為シタル人

ヨリ之ニ依リテ福利ヲ受ケタル人ニ對  
シテ其苦勞ヲ報酬セシムルヲ

此論題ハ固ヨリ明亮簡易ナルモノニシテ惟報酬ノ  
多少ヲ判定スルニ其受ケ得タル福利ノ大小ヲ測量  
スルヲ要スルノミ故ニ法官タル者ノ之ヲ判断スル  
ニ方テモ其腦袋ヲ勞スルヲ亦多カラストス  
醫師アリ人ノ病ヲ得テ昏迷シ醫ヲ邀フヘキ感覺ヲ

有セサル者ヲ治療シ或ハ他人ノ物件ヲ預ル者アリ  
敢テ托者ノ依頼アラサルニ其心カヲ勞シ又ハ自ラ  
金ヲ出シテ其物件ヲ保存シ或ハ火災アルニ方テ貴  
重ノ物件ヲ救出シ或ハ性命ヲ助ケルカ為メニ敢テ  
危険ヲ冒シテ其身ヲ惜マス或ハ洋中颶風ニ遇フテ  
船脚ヲ輕クシ以テ自餘ノ貨物ヲ保存セシカ為メニ  
自己ノ行李ヲ海中ニ投スルカ如キ特殊ノ事情アル  
ニ於テ法律ハ必ス其服役ノ價值トシテ之ヲ得タル  
人ノ福利ニ相應セシ一定ノ報酬ヲ為サシムヘキナ  
リ

民法論綱  
何氏藏板

法論綱目 卷之五 何氏藏

斯ノ如ク服役ヲ受ケタル人ヲシテ其之ヲ為シタル  
人ニ報酬ヲ與ヘシムルハ至當至利ノ道理ニ根基ス  
ルモノナリ何トナレハ此報酬ヲ與フルモ服役ヲ受  
ケタル者ノ為メニハ多少ノ利益ヲ存スヘク若シ之  
ヲ與ヘサル片ハ則チ全ク服役ヲ為シタル者ノ損失  
ト為ルヘケレハナリ  
蓋シ此報酬ノ法則ヲ設立セル真意ハ之ヲ得ル人ノ  
利益ヲ謀ルヨリモ之ヲ與フル人ノ利益ヲ謀ルモノ  
居多ニシテ恰モ預シメ約束ヲ立テ、以テ各人ヲシ  
テ敢テ一身ノ利益ノミニ注意セシメス緩急ノ時ニ

臨ミテハ慈善ノ心ヲ發作シテ己カ勞苦ヲ憚ラズ他  
人ノ利益ニ歸スヘキノ服役ヲ為スノ機會ヲ得セシ  
ムルモノ、如レ○試ニ問フ誰カ欺ノ預慮ノ法則ニ  
頼リテ患害ヲ防キ得ルノ多クナルヲ疑フモノアラ  
シヤ實ニ慈善ノ心ノ勃發ヲ抑制スルモノハ一身ノ  
利ヲ愛護スルニ因ラサル無キヲ以テ能ク此二者ヲ  
協和シテ抗爭セシメサラントニ盡カスルハ固ヨリ  
制法者ノ智術ニ在リト謂ハサルヲ得サルナリ古來  
口碑ノ傳フル所ニ據レハ雅典ニ於テハ忘恩背義ノ  
行アルモノハ之ヲ見テ直チニ人民交際ノ利益ヲ破

法論綱目 卷之五 何氏藏

法律論綱 卷之五 十一  
法律論綱 卷之五 十一  
法律論綱 卷之五 十一

ルノ罪ト爲シテ罰典ニ處セシト記者ノ意ハ敢テ嚴酷ナル法律ヲ制定シテ之ヲ懲罰スルヲ希望スルニアラスト雖モカメテ此ノ忘恩背義ノ汚俗ニ陥ルヲ防カント欲スルナリ○若シ汝今他人ニ服役ヲ爲セシニ其人假令汝カ恩義ヲ感謝セサルモ決シテ介意スヘキニ非ラス是レ法律ニ於テハ道德ヲ以テ直接ノ義務トセサルカ故ナリ然レ氏苟モ他人ニ服役ヲナスモノニハ法律ノ保証スルアリテ以テ一定ノ報酬ヲ得セシメ而メ緊要ノ時ニ方テハ其報酬ノ著大ナル猶ホ其功勞ヲ褒賞スルト一般ナルニ至ル

ヘキナリ  
蓋シ褒賞ハ服役ヲ得ルノ善策ニシテ之ヲ罰典ニ比スレハ齊シク治民ノ要具タルモ其効用ノ相距ル實ニ霄壤ノ異アリ何トナレハ人民ノ服役ニ於ル其行爲一ニ刑罰ヲ畏ル、ノ心ニ出ル時ハソノ万モ免ル可ラサル地位ニ在ラサルヨリハ敢テ其力ヲ致スルナカルヘシ故ニ其義務ヲ怠ル者ヲ罰セント欲スルニハ必ス先ツ其人ノ果シテ之ヲ爲シ得ルノ力量アリヤ否ヤヲ証明シ加フルニ又之ヲ怠ル所以ノ適辭ヲ作ラシム可ラサルヲ以テ其真情ヲ得ルノ間審問

民法論綱 卷之五 十一  
民法論綱 卷之五 十一  
民法論綱 卷之五 十一

鞠訊ノ工夫ヲ費シ許多ノ艱險ヲ經サレハ能ハス然  
ルニ褒賞ヲ望ムノ情ハ之ニ反シテ量ル可ラサルノ  
氣力ヲ發作シ能ク艱難苦辛ニ闘テ克ツノミナラス  
夫ノ畏刑ノ心ヨリ服役ヲ為スモノハ中心悦服シテ  
然ルニアラサルモ褒賞ノ鼓舞スルニ因テ起ルモノ  
ハ必ス勇敢豪邁ノ精神ト為ラサルモノナシ  
服役ヲ為セシ者ト之ヲ受ケタル者ト雙方ノ利害ヲ  
剖析スルニ方テハ預シメ三條ノ謀慮ヲ盡ササル可  
カラズ即チ其一ハ慈善ノ名ヲ假リテ却テ他人ノ害  
ト為リ或ハ私心ヲ狹ミテ服役ヲ為シ以テ報酬ヲ博

法論綱  
卷之五  
何氏  
精  
木

ムルカ如キ鄉愿ノ偽行ヲ制止スルニアリ其二ハ專  
ラ金ヲ貪ルヨリ出ルモノニシテ之ヲ受クル人ニ於  
テハ敢テ其助力ニ頼ラサルモ其力自ラ為シ得ヘク  
且他ニ僅少ノ勞費ヲ與ヘテ為シ得ヘキノ服役ヲ為  
シタル者ニ褒賞ヲ僥倖セシメサルニ在リ其三ハ服  
役ヲ為ス者ノ數衆多ニシテ全ク其利益ヲ盡クシテ  
之ニ報酬スルモ未タ其損失ヲ償フニ足ラサルカ如  
キモノアラサラシムルニ在リ

原註顯理王第四世查理王第二世ノ如ク群臣ノ  
功勞ニ頼リテ父祖ノ舊國ヲ回復セシ帝王ノ景

云命岡  
長之  
可氏  
反

民法論綱 卷之五 十四 可氏載反

狀即チ第三類ニ屬セリ當時果シテ群臣ノ功勞ニ報ヒテ諸人ヲ満足セシメント欲セハ其國ヲ寸裂シテ分配スルニアラサレハ能ハサルヘシ是ニ據テ之ヲ見ルニ要償ノ服役ハ其他數多ノ義務ノ由テ胚胎スル所ト為ルヘキモノニシテ彼ノ父ノ子ニ對シテ有スル所ノ權利モ亦茲ニ出テサルハ無シ是レ造化自然ノ運行ニ依リ壯者父ノ氣力漸ク衰疲シ幼者子ハ正ニ成長シテ穉弱ノ區域ヲ脱スルニ及ヒ已ニ服役父母ノ教育ヲ求ムルノ權利ヲ變シテ唯々報酬子孫ノ孝養ヲ為スノ義務ノト為レハナリ又妻々

ルモノ、容色已ニ衰フルニ至テ尚ホ其夫ヨリ扶持ヲ得ヘキノ權利アルモ亦此理ニ齊シクシテ當初結髮伉儷ノ愛情ヲ起セシ所ノモノハ即チ容色ニ在ルヲ以テ今日ノ容色ハ衰頹ニ屬スト雖モ特ニ既往ノ愛情ニ報酬スルニ之ヲ棄テサルノ義務ヲ以テスルナリ  
公財ヲ以テ國家ニ功勞アル者ノ為メニ賞典ヲ給與スルモ其理亦同一ニシテ已往ノ功勞ヲ賞スルハ即チ以テ將來ヲ鼓舞スル所以ノ治具タリ  
第三 契約 彼此ノ二人俱ニ法律上ノ義務ヲ

民法論綱 卷之五 十四 可氏載反

承知シテ其間ニ契約ヲ結フ

既ニ財産ノ處分ニ於ル承諾ニ就テ論述セシ所ノモ  
 ノハ之ヲ等シク服役ニ於ルノ承諾ニ活用ニ得ルヲ  
 テソノ服役ヲ交易スルヲ制可スルノ理由モ亦  
 即チ財産ノ交易ヲ制可スルノ理由ヲ以テ之ヲ治理  
 スヘシ是故ニ其財産ニ於ルト服役ニ於ルトニ拘ラ  
 ス制法者ノ正鵠トスヘキハ九ノ授受ノ事ハ自ラ利  
 益ノ其中ニ存スルトノ法訣ヲ服膺スルニ外ナラス  
 是レ苟モ實利ヲ謀ルノ念頭アルニ非サレハ決シテ  
 其身ヲ約束スヘキモノ有ラサレハナリ

然ルヲ以テ財産授受ノ承諾ヲ消除スヘキ理由ハ亦  
 テ服役ニ於ル承諾ヲ消除スルヲ得ヘシ即チ隱  
 瞞、欺詐、強迫、教唆、法律上ノ義務ヲ悞認シ物價ヲ誤認  
 シ其資格ヲ有セス及ヒ敢テ契約主ノ過失ニ非ラサ  
 ルモ之ヲ實踐スルニ於テハ公衆ノ危害トナルヘキ  
 カ如キ情實是ナリ

**原註** 英國ノ法律ニ據レハ王族ニシテ若シ國王

ノ允裁ヲ經ス婚姻スル片ハ其効用ナキカ如キ  
 即チ末節ノ一例ナリ

契約ヲ消除スヘキ第二ノ原因ヲ略舉スルヲ左ノ如



民法論綱 卷之五 何日...

シ 第一、已ニ約務ヲ成達セシ時 第二、已ニ報償ヲ  
得シ時 第三、明許或ハ黙許 第四、期限已ニ経過セ  
シ時 第五、身体ノ不具 第六、此契約ヨリ一層著大  
ナル不利ノ出来セシ時是レナリ此ノ如キ時宜ニ方  
テハ先キニ服役ヲ制可セシ所ノ理由泯滅スルモ然  
モ第五第六ノ原因ニ至テハ未タ約務ヲ履行スヘキ  
ノ理由全ク盡キササルカ故ニ之ヲ償補スヘキ一綫ノ  
機相存ス譬ヘハ甲乙ノ二人互ニ契約ヲ結フニ方テ  
若シ其一人ノ其義務ヲ履行セシカ或ハ他ノ一人  
ニ比スレハ其盡力更ニ居多ナル所ハ則チ一定ノ報

償ヲ得テ以テ雙方ノ平均ヲ持セサル可ラサルカ如  
キ是レナリ  
夫レ人事ノ多端ナル固ヨリ之ヲ齊一ナラシムル能  
ハサレハ須ク其機ニ應シテ變通ノ處置ナカル可ラ  
ス故ニ制法者洵トニ能ク簡明ナル規則ヲ制定スル  
ヲ得タランニハ各人契約ヲ結フニ方テ彼此撞着ス  
ルノ弊害ヲ免レテ而モ亦之ヲ齊一ニ歸スルヲ得ヘ  
シ今其規則ノ節目ヲ論スルニ獨リ其大綱ヲ左ニ掲  
示スレハ讀者宜シク其精神ヲ採摘シテ之ヲ實際ニ  
活用スヘシ

民法論綱 卷之五 可代...

民法論  
論議  
五

何  
論

第一 失望ノ苦ヲ生セシムルヲ避クヘシ

第二 若シ萬モ避ク可ラサルノ失望ノ苦アル

時ハ其力量ニ應シテ之ヲ各約主ニ分賦

シテ勉メテ其所損ノ額數ヲ減セシムヘ

シ

第三 之ヲ分賦スルニ方テ若シ其中ノ一人先

ニ注意シタラシニハ此際ノ患苦ヲ防キ

得ヘキモノアラハ之ニ多分ヲ負ハシメ

テ以テ其怠慢ノ罰ト為スヘシ

第四 勉メテ偶生ノ損害ヲ生シテ却テ失望ノ

概論

苦ニ勝ラシムルヲ避クヘシ

夫レ義務ノ理因全ク此實利ノ主義ニ淵源スルヤ斯

ノ如シ而メ今此巨大ナル屋宇義務ヲ維持シテ額

壞セシメサル所以ノモノハ全ク殊勝要償ノ服役及

契約ナル三條ノ支柱ニ頼ラサルハ無ク而メ其主義

ハ極メテ簡易明晰ニシテ必シモ之ヲ尋繹スルカ為

メニ一條ノ新路ヲ設クルヲ要セサルナリ然ルニ者

官試ニ典籍ヲ繕キテ古ヨリ碩學ヲ以テ鳴ル所ノゴ

ロテユス、プツェンドルフ、ブルラムキー、ファツテルモン

民法論  
可  
反

民法論綱  
卷之五

民法論綱  
卷之五

テスキュー、ロック、ルソー、及ヒ無數ノ註疏家ノ議論ヲ  
通讀スヘシ此諸先生カ彼ノ義務ノ原因ヲ剖析セシ  
ト欲スルニ方テ或ハ性理上ノ權利ヲ拈出シ或ハ先  
天ノ法律ヲ拈出シ或ハ神法或ハ良能ノ法或ハ人類  
相交ルノ通義或ハ黙約或ハ片約等許多ノ難題ヲ授  
キテ以テ空中ニ樓閣ヲ架セシヲ者破ス可シ但諸先  
生ノ拈出セル此等ノ難題ト雖モ之ニ牽強ノ辨ヲ附  
會スルキハ以テ苦樂利害ノ要點ニ歸セシムヘキヲ  
以テ到底此書ニ説ク所ノ主義ニ乖戾セサルヲ得ヘ  
キモ特リ奈何セン其論紆徐屈曲ニシテ直通ノ大道

ニ依ラサルカ故ニ讀者ヲシテ多岐忘羊ノ嘆ヲ免レ  
シム想亦能ハサルヨル終ニ其疑團ヲ氷釋シ得サル  
下ヲ、諸先生其是の實際、主義ニ準テ、  
蓋シ諸先生ハ契約ハ自ラ理因トナルモノニ非ラス  
且之ヲシテ一ノ理因タラシメンニハ必ス一ノ根基  
ヲ立テ、以テ契約ノ元素ト為ス可キヲ熟知セサ  
ルモノト謂フ可シ何トナレハ契約ノ事タル之ヲ結  
フ處ノ二人ノ為メニ彼此利益ノ其中ニ存スルヲ証  
明スルモノニテ彼ノ契約ノ作用ヲ發作スルモノハ  
乃チ實利ノ理因ニ外ナラサレハ實利ノ理因アルモ

民法論綱  
卷之五  
可大

民法論綱 卷之五 五

ノハ之ヲ制可シ理因無キ者ハ之ヲ消除ス可キノ二  
端ヲ生スルナリ然ルニ若シ諸先生ノ説ク所ニ從テ  
契約ヲ以テ自ラ理因ナレモノトスル時ハ始終必ス  
全一ノ効果ヲ結ハサル可ラス而シテ若シ其害ニ傾ク  
ノ故ヲ以テ之ヲ消除ストセハ又其利ニ傾クノ故ヲ  
以テ之ヲ制可セサルヲ得サルヘキナリ

第六回 財産共有ノ制度及ヒ其不利

諸般ノ制度中其最モ實利ノ主義ニ乖戾スルモノハ  
未タ財産共有ノ制ノ如ク劇甚ナルモノアラサルヘ  
シ就中全体ノ財産ヲ舉ケテ一社會ヲ構成スル處ノ

各人ノ共有ニ属シ自他ノ辨別ナキニ至テハ又其最  
モ甚シキモノナリ

第一ノ財産共有ノ制ハ適マ以テ不平ノ心ヲ醸成シ  
テ其希望ノ念ヲ絶タシムルモノナルカ故ニ之ニ關  
係セル各人ノ満足福利ト爲サシムルヲ能ハス却テ  
無數ノ擾亂ヲ湧出スル所ノ源頭タルノミ  
第二ノ分配セサル所ノ財産ハ之ヲ所有スルモノ一  
人ニアラサルヲ以テ一人ノ私有セル物品ニ比較ス  
ルハ必然大ニ其價值ヲ減却スルハ是レ其數人ノ  
共有タルカ故ニ愛惜ノ情自ラ薄ク一私人ノ利害ニ

民法論綱 卷之五 七 可氏藏版

於ルカ如ク親切ナラサルニ因リ敢テ改良修理ノカ  
ヲ費サスシテ終ニ頽壞ニ属セシムルヲ以テナリ故  
ニ仮令數多ノ共有主中ニテ一人ノ工費ヲ以テ之ヲ  
改良セント欲スル有ルモソノ勞費ハ全ク其人ノ負  
擔スル所トナリ而シテ其利益ノ必得ヲ保証シ難キ、  
ミナラス若シ之ヲ得ント欲スルモ亦數人ノ分配ス  
可キ共有主アルニ因テ一人ノ挺進シテ手ヲ此際ニ  
着下スルモノアラサルナリ  
第三 財産共有ノ制ハ徒ニ同等ノ外貌アルノミニ  
テ其實ハ不平不全ノ偏極ナルモノト謂フ可シ何ト

ナレハ強者ハ其力ヲ恃ニテ專横至ラサル所ナキモ  
敢テ之ヲ懲責スルモノナク富家ハ益貧民ヲ凌虐シ  
テ益其富ヲ兼併スヘシ之ヲ譬フルニ共有ノ制ハ猶  
ホカノ時トシテ世人ノ奇觀ニ供スル處ノ背肉密接  
シタル雙仔ノ弱者ハ常ニ強者ノ赴ク所ニ從ヒ行カ  
サルヲ得サルモノ、如シ  
然レハ夫妻ニシテ財産ヲ共有スルモノハ全ク此論  
題ニ異ナルモノトス何トナレハ夫妻ハ同居合餐シ  
テ相俱ニ一家ノ福利ヲ蓄殖シ以テ子女ノ福利ヲ享  
用スル所ノ資本ヲ豫謀スヘキ義務アルカ故ニ宜シ

民法論綱 卷之五 三十一

クソノ獲ル所ノ富ヲ共有シ公平全一ノ注意ニ因テ  
之ヲ保持スヘキモノナリ況ヤ法律ノ見點ヨリ之ヲ  
見ルキハ夫ハ妻ノ綱トナリテ喪事ヲ判決スルノ權  
利アルカ故ニ仮令夫妻ノ意志或ハ矛盾スルトアリ  
ト雖モ終ニ之ヲ一致ヒシムルヲ得ヘキニ於テヤ  
又商業會社ノ如キニ至テモ茲ニ所謂財產共有ノ制  
ヲ以テ之ヲ論ス可カラサルモノアリ蓋シ商業會社  
ノ目的ハ社員皆ナ其獲ル所ノ福利ニ外ナラスト雖  
モ敢テ其所獲ノモノヲ共有スルノ趣意ニアラス故  
ニ商業會社ニ於テ若シ各社員ノ希望スル所ノ福利

ヲ獲テ一己ノ所有ト為ルヲアレハ之ヲ享用スルモ  
之ヲ消費スルモ各人ノ自由ニ任ヒテ敢テ他人ノ之  
ヲ制束スル無ク殊ニ社員ハ其數甚タ多カラサルヲ  
以テ其新負ヲ容ル、ト容レサルトハ全ク舊負ノ意  
ニ在リテ且何時ニ於テモ一己ノ意ヲ以テ之ヲ脱シ  
得ルカ故ニ固ヨリ共有ノ財產ト相反スルモノアレ  
ハナリ  
輒今英國ニ於テ最モ開明ノ治圖ト稱スヘキハ彼ノ  
共有地ヲ分割セシ一事ニシテ即チ政府各州郡ニ散  
景狀ヲ檢視シテソノ利害ノ所在ヲ通知セシヨリ試  
始テ此件ノ良圖ヲ施行スルヲ得タルモノナリ試

民法論綱 卷之五 三十一

今日此善良ナル改革ヲ經シ土地ヲ經過セヨ荒穢ノ荆棘闢ケテ饒沃ノ隴畝ト爲リ人民爲ニ群居シ家畜馬ニ蕃息シ藹然トシテ和氣祥風四方ニ充滿スルヲ見テ曾テ當年ノ惨淡タル荒野ノ景況ヲ見サルハ是レ全ク人民ヲ駭カサス敵國ヲ挑マスシテ單ニ勤勞ノカニ因リテ土地ヲ攻略シ版圖ヲ擴充シタルノ雄圖ニアラスシテ何ソヤ嗚呼夙ニ勤農ノ名ヲ得タル邦土<sup>英</sup>ニシテ此數萬頃ノ膏腴ヲ以テ久シク共有ノ地ト爲レ之ヲ草萊荒蕪ニ委シテ問ハサリシハ誠ニ信スヘカラサル野ナリシ

原註然レ此之ヲ以テ通則ト看做ス可ラサルモ

ノアリ瑞西某郡ノ人民カアルプス山巔ノ土地ヲ共有スルカ如キ是レナリ此等ノ山巔ハ寒冷殊ニ剽シキヨリ牧畜ノ用ニ供スルハ厓カニ一年ノ中數月ナルニ過キスシテ且ツ山谷ノ間ニ居住シ外交ニ稀疎ナル人民ナルヲ以テ此制ヲ用ヒ以テ純乎タル民主政ノ基礎ト爲スモ敢テ事ヲ害スルコトナケレハナリ

偶生ノ變則ヲ除クノ外共有制ノ不利ヲ以テ服役ニ屬スル事件ニ用ユ可ラサルモノアリ即チ彼ノ道路

ノ權水流ノ權ノ如キ他人ノ不動産中ニ已カ所  
 有權ノ一部ヲ存有スル是レナリ然レ此等ノ權利ハ常  
 ニ其限界アリテ殊ニ服役ニ屬スルノ土地ノ不利ハ  
 服役ヲ得ルモノ、利ノ大且重ナルニ若カサルナリ  
 英國ニ於テフリーホールドノ土地ハ三十年ノ賃租  
 ヲ以テ之ヲ買賣スルニコッピールドノ土地ニ至  
 テハ唯二十年ノ賃租ヲ以テ之ヲ買賣スルヲ得タ  
 リ蓋シ此差異ヲ生スル所以ハ全クコッピールド  
 ノ土地ニハ一種ノ領主ナルモノアリテ多少ノ權利  
 ヲ所有シ而シテ此領主ト實ノ所有主トノ間ニ彼ノ

共有ノ制ニ類似セル古習ノ存スルニ由テナリ然レ  
 氏實ノ所有主ノ損失スル所ハ全ク領主ノ所得トナ  
 ルニアラスシテ乃チ其十ノ八九ハ無用ノ規則ト煩  
 雜ニ堪ヘサル手數ノ為メニ代理人若シクハ法律士  
 ノ手ニ歸スルモノナリ意是レ封建ノ餘毒ノ今日未  
 タ癒ヘサルモノナル乎

孟德斯鳩曰ク封建ノ制ハ猶ホ百年ノ星霜ヲ經シ大  
 櫟樹ノ如キ乎其秀美實ニ人目ヲ娛マシムルニ足レ  
 リト惡是レ何言ソ今日ノ法律ニ紊雜ヲ生シテ其困  
 厄ヲ脱セシムル能ハサルハ豈封建ノ制アリシニ因



テ然ラシムルモノニアラスヤ況ヤ此財産ノ一事ニ  
於テハ其關涉ノ最モ緊切ナルヲ以テ敢テ法律ヲ毀  
損セシテハソノ餘毒ヲ療治ス可ラサルニ於テヲ  
ヤ

第七回 損失ヲ分配スル

物件ト服役トハ固ヨリ所得ノ一部ニシテ本編已ニ  
此二件ヲ授受スルニ各異ノ方法アルヲ論述セリ  
今其得失ノ倚伏スル所ヲ推究スルニ彼此亦頗ル相  
肖タル所アルヲ以テ茲ニソノ損失ヲ分配スヘキ各  
種ノ方法ヲ揭示スヘシ○夫レ物件ハ毀ツヘク損ス

ヘク又失フヘキノ性アレハ之ヲ毀傷損失スルニ方  
テハ其所有主ノ之ヲ負擔ス可キハ言ヲ俟サルモ若  
シ其所有主ノ誰ニ屬スルヲ知ラサルキハ固ヨリ  
各人ノ毫モ關係スル所ニ非サレハ敢テ之ニ任スル  
モノナク猶ホ未タ曾テ損失ヲ生ヒサルモノ、如ク  
ナルヘシ此時ニ方テハ此損失ヲ以テ強テ所有主ニ  
非サル者ニ負擔セシムヘキ耶(約シテ之ヲ言ヘハ何  
等ノ場合ニ方テ其人ハ報酬ヲ求ムルノ権利アリヤ)  
此問題ハ正シク刑法ニ屬スルヲ以テ詳ニ之ヲ刑法  
論中ニ説明スヘシ然レ氏今簡明ナル一項ヲ擧テ聊

民法論綱 卷之五 三十一

カ此件ノ大綱ヲ啓示セシ  
若シ物件ノ賣主、買主、俱ニ地ヲ隔テ、居住スル時ハ  
其貨物ノ賣主ヲ離レテ買主ニ歸スルノ際或ハ陸地  
ニ由リ或ハ海路ヲ經、或ハ内河ニ沿フテ之ヲ運輸ス  
ルヲ以テ必ス多人ノ手ヲ經過セサルヲ得ス然ルニ  
未タ買主ノ手ニ達セシテ貨物毀傷損失シ之カ為  
メ其品位ヲ缺損スルニ至ラハ其損失ノ歸スル所ハ  
果シテ何人ニ屬スヘキヤ之ヲ賣主ニ歸スヘキ耶將  
タ買主ニ歸スヘキ耶曰ク之ヲ賣主ニ歸スヘシ而メ  
賣主ハ又其中間ノ經手者ヲ責ムヘキノ權利アリ蓋

シ之ヲ賣主ニ負擔セシムル所以ハ賣主ハ物件ノ安  
全ヲ保ツヘキノ注意ヲ為スノ地位ニ當リ之ヲ運送  
スヘキ時日及ヒ之ヲ達スルノ方法ヲ撰定シ以テ預  
防ノ方策ヲ設クヘキ保擔者タルヲ以テナリ經手者  
ノ賣主ニ對スルモ亦復欺ノ如シ  
都テ此等ノ事情ハ商業ヲ專務トスル所ノ賣主ニ於  
テ擔當スルニ最モ容易ニシテ而メ之ヲ買主ノ注意  
保擔ニ任シ安全ヲ得ヘキハ偶然ノ事ニ屬シテ特ニ  
百中ノ一二ニ過キサレノミ故ニ欺ノ如キ斷案ヲ下  
スハ其理安固ノ主義ニ淵源シテ大ニ防微杜漸ノ作

民法論綱 卷之五 三十二

民法論綱 卷之五

二十五 何氏藏板

用ヲ為スヘキナリ  
然リト雖モ特殊ノ場合ニ臨ミテハ推變ノ策ヲ用ヒ  
テ此通則ヲ離レサルヲ得サルモノアリ蓋シ殊勝  
ノ理由之アルハ私人相互ノ契約ニ由テ其任ヲ負  
擔セサルモ妨ケナキヲ以テ其實際ノ用法ニ至テハ  
之ヲ本篇ニ於テ説明セシ

下篇 各人ノ分限ニ属スル處ノ權利義務

緒言

以下專ラ法律ニ由テ一家族ヲ構成スル所ノ各人ノ

分限ニ吩咐スル處ノ推理義務ヲ論シテ其節目ヲ詳  
悉ス可シ今此分限ヲ分テ主從幼者後見人、父子、夫婦  
ノ四倫ト為ス

若シ此族属ノ元始ニ溯リ其天然ノ順序ニ從フキハ  
第四ニ列スル所ノ夫婦ヲ以テ第一ト為スヲ以テ其  
當ヲ得ルト雖モ唯其重複ニ涉タルヲ避シカ為メニ  
ハ此中ノ最モ簡易ナルモノヨリ論端ヲ開クヲ以テ  
更ニ明了ナルヲ覺フヘシ蓋シ父及ヒ夫タル者ノ推  
利義務ハ即チ主人後見人ノ權利義務ヨリ成ルモノ  
ナレハ宜シク父子夫婦ノ二倫ヲ以テ四倫ノ元行ト

民法論綱 卷之五 何氏藏板

者做スヘキナリ

第一回 主従

若シ夫レ奴隸ノ論題ヲ放擲シテ不問ニ置ク片ハ則チ主人ノ分限及ヒ其従属ノ義ノ全シカラサルニ從テ所生ノ分限及ヒ其枝葉ニ就テ故ラニ論鋒ヲ用ユヘキ餘地ナカル可シ蓋シ主従ノ分限ハ必竟契約ノ結果ニ外ナラスシテソノ契約ナルモノハ即チ雙方ノ便宜ニ應シテ之ヲ約束スルモノナレハナリ

主人ノ分限(習業徒弟ノ分限モ之ニ當ル)ハ其性甚ク雜駁ナルモノニシテ彼ノ習業徒弟ノ主人タル者ハ

主人、教師ノ二者ヲ兼有セリ即チソノ所教ノ技術ニ於テハ教師ノ分限ヲ有シ徒弟ノ所獲ノ利益ニ於テハ主人ノ分限ヲ有セリ

習業徒弟ノ勞力ヨリ所生ノ利益ヲ以テ已ニ其教育ノ價ヲ償フノ後尚ホ有餘ノ工課ヲ成サシメ之ニ由テ得ル所ノ利益ハ之ヲ主人ノ従前費セシ處ノ勞苦用度ニ報謝スルノ俸給ト為スナリ

此俸給ノ宜シク技術ノ難易ニ從テ多寡アルヘキハ天然ノ理ニシテ或ハ一七日ヲ以テ學ヒ得ヘキモノアリ或ハ七年ノ久シキヲ經サレハ成業シ難キモノ

アリ、專業者ノ盈縮即チ其需用供給ニ相應シテ互ニ  
 服役ノ價ヲ調整スルハ猶ホ貿易ノ貨物ニ於ルト更  
 ニ異ナル所ナシ故ニ此一事ニ於テモ其業ニ勤ムル  
 モノハ相當ノ報酬ヲ得ル丁固ヨリ他ノ事業ニ於ル  
 ト亦一般ナル丁ヲ知ル可キナリ然ルニ政府ノ治術  
 ヲ察スルニ此自由的ノ方法ニ頼リ天然ノ定規ニ則  
 ル丁甚ク稀レニシテ強テ人為ノ規則ヲ制シ彼ノ官  
 吏ノ所謂秩序ナル者ヲ以テ之ヲ實際ノ職業ニ施シ  
 揚々トシテ意滿チ志得ルハ更ニ事物ニハ自ラ能ク  
 調整スルノ理由アル丁ヲ知ラサルモノニシテ往々

全一ノ規則ヲ以テ其性質ノ全ク相反シタル職業ヲ  
 調整シ之ヲ視テ政令一途ニ出ルト做スハ豈ニ之ヲ  
 過誤ト謂ハサル可ケンヤ今其一例ヲ舉ケテ之ヲ言  
 フニエリサベツト女主ノ宰相カ技術ノ難易ヲ問ハス  
 都テ習業ノ年期ヲ定メテ七年ト爲セシカ如キ是亦  
 然リ而シテ制法者ハ此人為ノ規則ノ天然ノ理ニ違フ  
 タルトヲ蔽掩センカ為メニ故ラニ譬柄ヲ設テ曰ク  
 此規則ハ百般ノ技術ヲ成達セント欲スルヨリ拙工  
 庸匠ノ出ルヲ防キ以テ一國ノ製造品ヲ保護シテソ  
 ノ信任名譽ヲ墜サシメサルニ出テレト揚言セサル

ハ無シ何ソ知ラン此目的ヲ達スルニハ自ラ天然ノ方法アリテ相存シ其理甚タ明白ナルヲ以テ乃チ各人ノ志意ヲ束縛スルヲナク其欲スル所ニ赴クヲ許容スルモ敢テ妨ル所ニ非サレハ其拙エヲ去リテ良匠ニ就クハ全ク當人ノ鑒識ニ任シテ取捨其撰フ處ニアラシメ以テ擅マニ競進ノ道ヲ開キ之ヲ鼓舞作興セシムルニ若カサルナリ○然ルニ政府ノ趣意ハ否ラス人民ヲ鑒定スルニソノ職業ノ巧拙ヲ以テセシテ唯法律ニテ制定シタル年期ノ間之ニ職業ニ従事シタルヤ否ヤヲ以テセリ

果シテ然ラハ工人ノ能否ヲ品評スルニ方テモ亦其技術ノ巧拙ヲ問ハスシテ唯ソノ習業ノ年期ノ長短ニ在ラサル可ラス噫是レ實ニ不通ノ論ナリ夫レ政府ノ趣意已ニ技術ノ巧拙ヲ以テ職業ヲ鑒定スルモノト爲スニ在ラハ何ソ各人ヲシテ一身ノ利害ヲ抵當トシ自由ニ職業ニ就カシムルノ更ニ便且良ナルニ依ラサルヤ  
能ク此法ニ依ル片ハ或ハ曾テ習業ノ徒弟ト爲ルヲ待タスシテ儼然タル良匠トナルモノアリ或ハ終身徒弟ト爲ルモ其力一家ヲ成シ得サルモノアリテ巧

拙自ラ其人ニ依テ判然タルヘシ

第二回 奴隸ノ制ヲ論ス

服役ノ習、一身ノ分限ト為リテ其主人或ハ服役ヲ要スヘキ權利アル人ニ對シテ始終此分限ニ止マルヲ以テ義務ト為シ其身生存スルノ間從者ノ名義決シテ消滅トサルモノ之ヲ奴隸ノ分限ト云フ

奴隸ノ制ハソノ主人カ法律ニ照シテ要求スル服役ノ度數ト其之ヲ制御スル權カノ大小ニ從ツテ許多ノ寬嚴ヲ生スル丁アルヘシ既ニ往古雅典羅世敦ノ二國ハ俱ニ奴隸ノ制アリシト雖モ今日魯西亞ノ耕

奴ト米國南部ノ黑奴トソノ分限ノ未タ全一ノ地位ニ到リ能ハサルカ如ク其分限ニ至テ大ニ差等アリ之ヲ要スルニ其驅役スル所ノ權カニ於テ仮令寬嚴仁暴ノ不全アルモ若シ服役ノ義務ニ一定ノ期限ヲ立テサル時ハ究竟奴隸制ノ惡名ヲ免ル、一能ハサレハ奴隸ト自主民トノ間ニ一條ノ分界線ヲ劃クカ為メ必ス一定ノ點位ヲ定メサル可ラス期限ナキノ一事ハ乃チ所要ニシテ且極メテ之ヲ証明スルニ容易ナル點位ナリ

此期限ノ有無ヲ以テ奴隸ト自主民トノ分限ヲ定ム

民法論 卷之五 三十一

ル所ノ界線ト為スハ最モ精要ナルモノナリ、何トナ  
レハ特リ無期ノ服役ノ行ハル、國土ニ在リテハ主  
人ノ権力暴威ヲ寛和ニスヘキ智慮ヲ減衰シ以テ仁  
慈ノ心ヲ蝕食スルノ弊アリ殊ニ主人ノ権威ハ以テ  
服役ノ期限ヲモ定メサルヲ得ヘキニ於テハ政府ト  
雖モ決シテ自余ノ行事ヲ檢束シ能ハサルヲ以テナ  
リ○試ニ眼ヲ放テ主従二者ノ境遇ヲ觀察セヨ、主人  
ニハ漸ニ奴隸ノ羈絆ヲ緊束スルノ権アリソノ務ム  
ヘキ服役ヲ必行セシムルノ権アリ種々ノ弊柄ヲ設  
ケテ要取スル所ノ權利ヲ増シ得ヘシ、眞頑不靈ノ奴

隸アリテ義務ヲ認メス服役ヲ怠ルモノアリレハ之ヲ  
拷掠スヘキノ機ヲ索メ能フヘシ此等ノ數事ハ皆テ  
主人ノ掌握ニ在テ之ヲ實施スルニ甚タ容易ナルモ  
ノナリ○之ニ反シテ奴隸ハ法律ノ保護ヲ求メ得ル  
ノ権無シ故ニ強テ之ヲ得ント欲セハ必ス詞訟ヲ起  
シテ主人ト抗争スルナキ能ハス仮令訟庭ニ於テ直  
ヲ得ルモ事後ニ其報復ヲ受ケ大ニ悲憤ニ堪ヘサル  
モノアルヘシ誰カ公義正理ニ仗テ好テ主人ノ暴怒  
ヲ惹觸スルモノアラシヤ寧ロ唯々トシテ無限ノ順  
從ヲ為シ以テ難期ノ慈惠ヲ仰クヘキノミ嗚呼境遇

民法論 卷之五 三十一



ノ艱難ヲ極ムル未タ奴隸ヨリ甚シキモノ非ルナリ  
 縱令法律ヲ以テ奴隸ノ制ヲ寛和ナラシメント欲ス  
 ルモ其治術ハ唯之ヲ制定スルニ過キスシテ敢テ之  
 ヲ實際ニ施行スルニ能ハサルヘシ又法律ヲ以テ服  
 役ノ制限ヲ設立スルモ其作用極メテ微弱ニシテ敢  
 テ奴隸ノ命運ヲ進長スルニ足ラサレハ仮令至良ノ  
 法律アリテ能ク之ヲ保護シ得ルモ畢竟ソノ懲治ス  
 ル所ハ非常ノ罪惡ニ止マリテ彼ノ平日ノ苦役虐使  
 ニ至テハ法廳ノ威力モ亦之ヲ如何トモスルナキ  
 ヲ知ルヘキナリ○然リ而シテ記者ノ趣意タル決シ

テ奴隸ヲ以テ主人ノ無限ノ権ニ委棄スヘシト言フ  
 ニアラス、又保護ノ作用ノ充全ナラサルニ依リ寧ロ  
 法律上ノ保護ヲ與ヘサルニ如カスト言フニアラス、  
 唯タ現ニ奴隸制ノ免ル可ラサル惡弊ヲ述ヘテ主人  
 ノ威権ノ猛烈ヲ極ムルヲ知ラシメ從テ法律ノ作  
 用ヲ以テ之ヲ制束スルニ能ハサルヲ以テ若シ主人  
 其威権ヲ濫用スルモ敢テ之ヲ防クノ方術ナキトテ  
 証明スルノミ  
 奴隸制ノ主人ノ為メニ便利ナルハ固ヨリ論ヲ待タ  
 サル所ニシテ主人タル者ハ苟モ其欲スル所アルヤ

必ス之ヲ施行シテ其志意ヲ遂ゲサルナキモ奴隸ニ至リテハ固ヨリ其境遇ニ安居スルモノニアラス只束縛ノ免ル可ラサルニ屈從スルカ故ニ其憂苦ニ堪ヘサルナハ亦論ヲ待タサル所ナリ故ニ約シテ之ヲ言ヘハ自主ノ民ニシテ誰カ奴隸ト為ルヲ好ムモノアラシヤ奴隸ニシテ誰カ自主ノ民タルヲ欲セサルモノアラシヤ人ノ情願ヲ察セス人ノ感覺ヲ顧ミスニテ唯其康福ノミヲ討論スレハ皆ナ之ヲ至愚ト謂ハサルモノナシ然ルヲ况ト臆測忖度ニ據リテ彼ノ一人モ入ル

ヲ好マサルノ苦界ニ陥リ一人モ止マルヲ望マサルノ境遇ニ在リテ絶エス悲憤ニ沈没スルモノヲ見テ以テ之ヲ康福ノ地位ニ在リト為シ之ヲ人性ニ適當スルモノト為サント欲スルハ萬其理無キ所ナリ○蓋シ先入ノ弊ニ克チ能ハサル偏心者ノ見點ニ於テハ或ハ自主權ト奴隸習ノ隔絶スル所ハ其實纔カニ咫尺ノ間ニシテ局外ノ人ヨリ之ヲ見ルカ如ク太甚シキモノニアラスト為スアラシ是レ其惡弊ニ慣染セルヲ以テ曾テ之ヲ怪ムナキノミナラス又更ニ良好ノ境遇アルヲ識得セサルニ因テソノ反對セ

ルニ極ノ境界ヲ減縮スルニ由ルヘシ馬ッ知ラシ  
 隷ノ分限ハ人々最モ忌憚スル所ノ確証アリテ決シ  
 テ人ノ情願ヨリ出ルモノニアラサレハ此等ノ事理  
 ヲ以テ奴隷ノ康福トスルカ如キハ豈ニ之ヲ謬妄ト  
 謂ハサル可ケンヤ  
 論者曰ク奴隷制ハ猶ホ終身在校ノ生徒ノ如キ乎人  
 皆ナ言ハスヤ學校ニ於テ經過セシ歲月ハ實ニ一生  
 ノ樂時ナリシト  
 嗚呼奴隷制ヲ學校ニ比スルハ特ニ一事ノ其形狀相  
 類スルモノアリテ奴隷及ヒ生徒ノ二者ハ俱ニ順從

ノ義ヲ以テ其分限トスル是ナリ然レモ生徒ノ快樂  
 心ヲ發作スルハ決シテ此順從ノ義ニ淵源スルニア  
 ラス乃チ其耳目ニ感觸スルノ事物日ニ新奇ニシテ  
 厭意ヲ生セサルトソノ年齢伯仲セルノ學友ト朝夕  
 盤桓游戲スルノ樂趣アル有リテソノ在家ノ時ノ困  
 倦無聊ナルニ反シテ大ニ活潑ナルトニ由レリ故ニ  
 學期已ニ終焉ニ及ヒテ尚ホソノ歲月ノ太タ速カニ  
 過キタルヲ憂フルモノ有ルヲ聞カス況ヤ又終身生  
 徒ト為リテ家ニ歸ル丁ヲ欲セサルモノアルニ於テ  
 ヲヤ

民法論綱 卷之五

奴隸ノ惡制ハ斯ノ如キモ昭々タリト雖モ姑ラク之ヲ廢止セス若シ唯其太甚ナルヲ調和シテ一主人ヲシテ一奴ノ外ヲ所有セシメサル時ハ其所得ノ利益ハ或ハソノ弊害ヲ平均スルヲ得ヘキヤ曰ク此ノ利害得失ヲ判断スルハ實ニ容易ニアラス固ヨリ因習ノ事弊ヲ調停シテ能ク其當ヲ得セシムルハ必期スルキ所ニアラス殊ニ奴隸制ノ一タヒ立ツヤ數萬ノ生靈ハ忽チ此苦界ニ陥落シテ恰モ牛馬ト異ラサル待遇ヲ蒙リ之ニ由テ生スル處ノ利益ハ獨リ主人ノ專ラニスル所ト為リテ終ニ疾苦ヲ免ルノ日ナシ

但シ其本質ノ弊害ハ或ハ斯ク太甚レキニ至ラサルモ其波及スル所ノ區域廣遠ニシテ殆ト名状ス可ラサルモノアラシ故ニ令利害ノ曲折ヲ拋擲シテ唯ノ大体ノミヲ概論スルモ奴隸ヲ解放スルニ方テ主人カ蒙ムル所ノ損失ト奴隸ニ歸スル所ノ利益ト其輕重緩急ノ相全シカラサルハ固ヨリ言ヲ待タサル所ニシテ斷然之ヲ容存シ能ハサルナリ  
國家ノ富強ヲ感動スルノ一事ニ於テモ亦奴隸制ヲ論破スヘキ確理アリ何トナレハ自主民ノ生産力ハ迥カニ奴隸ニ超優スルヲ以テ試ニ主人ノ所有ニ屬

民法論綱 卷之五 可成載反

スル處ノ奴隸ヲ擧ケテ之ヲ自主ノ民タラシメンニ  
 卒然之ヲ目レハ主人ハ其財産ノ一部ヲ損失スルカ  
 如キモ各奴隸ノ生産力ニ就テ之ヲ通計スルハ帝  
 ニ主人ノ損失スル所ノ額數ヲ償却スル而已ナラス  
 却テ幾多ノ羨餘ヲ生スルニ至ルハ必然ノ理ナリ然  
 ルヲ況ンヤ人民ノ康福ハ其殷富ナルニ從テ増加シ  
 遂ニ一國ノ強盛ヲ前進セシムルノ效果アルニ於テ  
 ヲヤ  
 奴隸ノ生産力ヲ減殺スルニ二個ノ原由アリ即チ勸  
 賞ノ道ヲキト一身ノ安固ヲ保チ難キ是レナリ

力作者ヲシテ各其技能ヲ事業ニ竭シシメ其價ヲ得  
 テ毫モ損スル所ヲ無ラン一ヲ欲シ之カ爲メニ專ラ  
 鞭撻ヲ施シテ畏懼ノ心ヲ生セシムルハ固ヨリ善良  
 ノ策ニアラス苟モ畏懼スル所アルハ却テソノ器量  
 ヲ韜晦シ甘シテ下流ニ浮沈シ敢テ餘人ニ卓出スル  
 ヲ望マサルノ心情ヲ起サシムヘシ  
 分外ノ課程ニ勤ムルハ自ラ刑罰ヲ招クニ侶タリ秀  
 技ナル技能ヲ顯ハスハ徒ニ義務ノ偏重ヲ致スニ過  
 キスト是レ一般奴隸ノ心情ニシテ其希望スル所ハ  
 全ク自主ノ民ニ反シ敢テ技能ノ進歩ニアラスシテ

却テ之ヲ暴棄セント欲スルニ在ルヲ以テ其生産力ノ啻ニ減殺スルノミナラスソノ糜費スル所ノ多量ナル實ニ自主ノ民ニ倍蕪スルモノアリ是レ全ク自己ノ福利ニ供スルニ非ラス惟自己ノ利益ヲ有セサルカ故ニ縱令物件ヲ毀損シ貨品ヲ掠奪スルモ盡ク主人ノ損失ニ屬シテ毫モ已レニ關セサレハ敢テ損益ヲ慮リ節儉ヲ勤ムルノ意ナク苟且怠慢以テ其純益タル筋骨ノ勞苦ヲ省クニ在リ○凡ノ事物ニ改正ヲ加ヘテ之ヲ進良ナラシメント欲セハ必ス思想考察ノ力ヲ費サハル可ラス而シテ思想考察ノ事タル

若シ之ヲ獎勵スルモノ有ルニ非スレハ決レテ人心ニ發動スルヲ能ハサルカ故ニ頭ヲ回ラシテ彼ノ奴隸ヲ顧ミルニ其身ハ牛馬ノ伴侶トナリ子孫世々此苦界ニ生没シテ遂ニ一歩モ進善ヲ得ルノ期ナケレハソノ新タニ良法ヲ創制シテ課程ノ分量ヲ増加シ以テ工事ノ精美ヲ致スル無キモ更ニ怪シムニ足ラサル所ナリ  
主人ハ奴隸ニ對シテ其勤勞ノ果實タル銖鎰ノ小利ヲ爭フ可カラス蓋シ奴隸ノ福利ハ到底主人ノ福利ニシテ主人タルモノ能ク此得失ノ所在ヲ通知シ勸

民法論綱

賞ノ方便ヲ設ケ以テ之ヲ鼓舞作興スヘキナリト、是レ何言ソ此恩惠ハ必竟一私人ノ性情ニ依頼シ必然一定ノ期ニ難キヲ以テ未タ奴隸ノ心志ヲシテ將來ニ注着セシメ今日ノ節儉ヲ累子テ他日ノ富基ヲ築キ以テ子孫ノ福利ヲ豫圖スルノ信任力ヲ發起セシムルニ足ラサレハ假令主人ニ或ハ慈善ノ心アラシタルモソノ管家代理人ノ如キ必ハ貪欲饜クナキモノアリテ其暴殘虐毒ノ慘ナル適カニ主人ニ超過スルモノアラシ故ニ奴隸ニシテ其富ヲ増加スルハ適強奪ノ禍ニ罹ルヘキ端緒ナルヲ了知シ敢テ明

何由

日ノ計ヲ為サズ饜饕懶惰ノノ康福トスル所ハ一時眼下ノ快樂ヲ博スルニ在ルノミ然ルヲ以テ千百人中偶一個ノ前途ヲ顧慮スルモノアルモ必ス深ク其財貨ヲ隱匿シ敢テ之ヲ他人ニ知ラシメサル可シ嗚呼其身ノ安固ナラサルヲ感覺スルヨリ所起ノ弊害ハ一トシテ一國ノ勤勞心ヲ損セサル无ク其習俗ハ一トシテ社會ノ惠害タラサル无キハ全ク勞作スルモ其報償ヲ得ス、冤枉アルモ其伸雪ヲ得サルニ胚胎スルモノニシテ此等ノ論ハ時ノ古今ヲ問ハス國ノ内外ニ拘ラス皆ナ實驗ニ出テタル結果ナレハ讀者

民法論綱

之ヲ視テ空理ヲ紬繹スルモノトナス勿レ

茲曰ク歐羅巴ノ自主民ニシテ一日ヲ以テ他人ニ雇  
使セラル、者ノ工程ヲ視ルニソノ勞作ノ景況ハ殆  
ト奴隸ニ異ラサルモノアリ是レ工事ノ課程ニ應レ  
テ僱直ヲ與フル片ハ其技能ヲ盡ス益多キニ從テ其  
報ヲ得ル益大ナルカ故ニ大ニ其勤勞ノ念ヲ作興セ  
シム可キモ彼ノ一日ヲ以テ僱使セラル、者ニ至リ  
テハ其勤惰巧拙ヲ論セス概レテ一日ノ賃金ヲ得ル  
ニ依テ勸賞ノ道立タサルヨリ其技能ヲ顯シ褒賞ヲ  
望ムノ念ヲ起スナク從テ工事ノ勞苦ヲ覺フノミニ

テ若シ懶惰ニシテ一日ノ定課ヲ勤メサル者アレハ  
忽チ其工場ヲ斥逐セラレ恰モ奴隸カ鞭撻ヲ受クル  
モノ、如シ故ニ日雇ノ力作者ト終身ノ奴隸トハ俱  
ニ畏懼ノ心ニ感動セラレテ勞作スルニ過キサレハ  
敢テ勞作ノ果實ヲ其身ノ利益ト為ス能ハスト是レ  
言ヲ知ラサルモノト謂フ可シ今三條ノ答詞ヲ陳述  
シテ以テ此理ヲ辨セスンハアル可ラス

第一日雇ノ工手ニ褒賞ヲ望ムノ念無シトハ果シテ  
是、何ノ言ソ工人ノ最モ其技ニ長シ最モ其業ニ勉ム  
ル者ハ必ス自餘ノ工人ニ比スレハ多量ノ給料ヲ得



テ又餘人ニ秀ツルヲ以テ常ニ諸人ニ雇使セラレテ  
一日モ徒手坐食スルヲナキカ故ニ數事ノ中ニ就テ  
最モ利益トナルヘキ工事ヲ撰ミテ之ニ從事スルヲ  
ヲ得ヘシ是レソノ勤勞ニ由テ得ル所ノ實賞ニアラ  
スレテ何ソヤ

第二返令論者ノ説ノ如ク自主民ノ日雇手ハ唯畏懼  
ノ心ニ由リテ勞作スルニ過キストスルモ其効果ヲ  
得ルニ至テハ亦其事實ノ大ニ奴隸ト異ナルモノア  
リ何トナレハ自由ヲ尊尚スルノ國ニ於テハ一般ニ  
廉耻ノ風流行スルカ故ニ若シ懶惰或ハ拙劣ノ醜名

ヲ得ル片ハ忽チ衆人ノ羞辱スル所ト為ルヲ以テ苟  
モ自主ノ民タルモノハ手齒相接スルノ賤工ト雖モ  
亦自餘ノ人民ノ如ク必ス一身ノ名譽ヲ愛惜シテ敢  
テ無耻ノ行ヲ為スモノナレ是レ同伴者ノ耳目ハ主  
人ノ聰明ノ達セサル所ヲ違シテ其間ニ一黠ノ私情  
ヲモ容レサルヨリ毫モ冤枉姑息ノ弊ナキノミナラ  
ス又タ此ノ同伴ノ公罰ニ因テ其名譽ヲ喪亡スルハ  
固ヨリ何時ニ在ルヲ期シ難キカ故ニ自主民ノ日雇  
手ハ交ソノ勤惰巧拙ヲ視察シ各自相競フテ工事ニ  
勤勞スルノ念ヲ發作セサルモノナシ奴隸ニ至テハ

民法論綱 卷之五

何日痛本

否ラス縦ヒ此方策ヲ施スト雖モ此念ヲ發作スルノ  
効用甚夕稀薄ナルハ是レ奴隸ハ主人ノ為メニ犬馬  
視セラル、ヲ以テ名譽ノ如キ高尚ナル責罰ニ感セ  
サルト又他人ノ利益ノ為メニ勞作シテ畢生ノ間秋  
毫ノ報ヲ食マサルノ不公平ヲ蒙ムルモ敢テ之ヲ免  
ル可ラサルニ因リ其務ム可キ勞作ヲ厭ヒ互ニ其懶  
惰ヲ視テ恬トシテ相耻チサルトニ由ルモノナリ  
第三、凡ソ日雇工手ノ利益ト為ルモノハ一モ必定ノ  
利益トナラサル無シ是レ其所獲ハ即チ一己ノ所獲  
ニシテ外人ノ得テ觸手スル所ニアラサルモ奴隸ハ

更ニ事物ノ安固ヲ受用シ能ハサルナリ○但シ此一  
事ニ就テ亦變格ノ事情ナキ能ハス譬ハ魯西亞ノ  
貴族ニ屬セル勤敏ナル奴隸ハ自ラ數萬ノ富ヲ有シ  
テ之ヲ受用スル、猶ホ主人カ其財産ニ於ルカ如ク  
外人ハ之ヲ間然ス可ラサル者アリ然リト雖モ此等ハ  
最モ稀有ノ特例ナルモノナレハ此一例ニ據リテ以  
テ奴隸ノ通弊ヲ變動スルニ足ラス故ニ全体ノ局面  
ヲ論シテソノ利弊得失ヲ審判スルニ方テハ斯ノ如  
キ特例變格ヲ援用スル、ヲ要セサルナリ  
奴隸制ノ弊害ヲ概論スルモ之ヲ陳述シテ以テ人心

民法論綱 卷之五

何日痛本

ヲ激動セント欲スルニアラス臆測ニ據リテ架空ノ  
辨ヲ逞クスルニアラス又勉メテ主人カソノ威權ヲ  
濫用スルヲ穿鑿シテ之ヲ普通ノ習慣ト認メ做スニ  
アラスト雖モ唯主人ハ非常ノ事件ノ出来スルニア  
ラサレハ敢テ其責ニ任セサルヲ以テ一家ノ政治ニ  
ハ一定ノ法律ナク訴訟ノ規則ナク上告スル所ナク  
公議ヲ容レサレハ殆ト之ヲ節制スルモノナキニ由  
リ其奴隸ヲ苦役シテ慘酷至ラサル所ナキモ避ク可  
ラサルノ弊害ト為ルヘキヲ以テナリ又人ノ感覺ニ  
觸ルハモノハ之ヲ責メテ過酷ニ陷ルノ弊ト為スヘ

民法言解 卷之五 何日痛

キモ今茲ニ論セシ所ハ特ニ奴隸制ニ萌孽スル弊害  
ノ其証據最モ確然章明ニシテ毫モ疑團ヲ置クヘカ  
ラサルモノノミヲ拈出スレハ敢テ此等ノ通例ノ弊  
害ヲ掲載セサルナリ○奴隸ヲ使役スル所ノ主人ニ  
於テモ苟モ一私ノ利益ニ惑溺スルナクシハ必ス  
通常ノ知識ト本然ノ慈善ヲ有スルカ故ニ縱令奴隸  
解放ノ舉アラシムルモ若シ其一家ノ富貴ヲ覆ヘス  
ト无ク一身ノ安固ヲ妨クルト无ケレハ誰カ自由ノ  
利益ノ奴隸制ニ勝ルトヲ承認シテ此解放ノ美譽ヲ  
希望セサルモノアランヤ然ルニ今日ニ至リ此盛美

民法言解 卷之五 何日痛

ノ舉ヲ達シ能ハサル所以ハ全ク其措置ノ躁急粗暴ナルヲ以テ主人タル者ノ冤屈不平ト為ルヨリ遂ニ之ヲ阻格シテ果サ、ルニ至リシナル可シ  
解放ハ洵トニ盛美ノ舉ト謂フ可シ然ルニ一朝強テ之ヲ施行セント欲セハ必ス一國ノ顛覆ヲ釀シ人民ノ秩序ヲ亂シ無數ノ財産ヲ毀テ各人ヲシテ曾テ嘗試セサル所ノ苦惱界ニ陥ラシメ其患害ハ此美舉ニ希望セシ所ノ利益ヲ盡クシテ尚ホ償フニ足ラサルモノアラシク然ラハ則チ解放ノ美舉ヲシテ主人ノ苦難ト為サ、

ルノミナラス却テ之カ為メ一定ノ利益ヲ享ケ得セシムルノ第一策ニシテ而モ最モ事理ニ適當スルモノ果シテ如何曰ク預メ奴隸一頭ノ身價ヲ定メ此價ヲ納ムルモノニハ直ニ之ヲシテ自主ノ民タラシムルニ在ルノミ然レ此善良ノ策ヲ施行スルニ方テ更ニ強盛ナル一ノ危害ヲ生セリ是レ其主人ノ利害ト奴隸ノ利害ト忽チ反對シテ相容レサルヨリ主人ハ百方術ヲ盡シテ奴隸ヲシテ其身ヲ贖フヘキノ貨財ヲ所有セシメス勉メテ奴隸ノ心思ヲ愚昧ニシ恒ニ貧困ノ地位ニ沈淪セシメ、若シ稍自立スルモノア

民法論綱  
卷之五

何止痛本

レハ必ス其羽翼ヲ截チ以テ之ヲ抑制スルニ至ルヘ  
シ故ニ此策ヲ施シテ而モ其害ヲ蒙ムラサランコトヲ  
欲セハ能ク收贖ノ法ヲ制定シテ全ク主人ト奴隸ト  
ノ承諾ニ出テシメ奴隸ハ工事ニ勤勞シテ大ニ其身  
價ヲ蓄フヲ以テ利益ト爲シ主人ハ奴隸ノ富財ヲ有  
シテ其身價ヲ納メ得ルニ至ルヲ以テ利益ト爲サン  
コトヲ要ス

第二策ハ主人ノ遺囑ヲ作ルノ權利ヲ制限シテ若シ  
正統嫡系ノ相續人ナクシハ乃チ解放ヲ得ルヲ以テ  
法律上ニ於テ奴隸ノ權利ト制定スルニ在リ蓋シ遺

産ヲ希望スルノ心情ハ其戚族ノ益疎遠ナルニ從テ  
益薄弱ナルカ故ニ若シ能ク法律ヲ制定シテ詳カニ  
其明趣ヲ曉諭スルニ至ラハ此希望ノ心情ヲシテ無  
何有ニ歸セシムルコトヲ得ヘシ已ニ希望ノ心情ヲ妨  
ケスシテ之ヲ解放スルハ敢テ偏頗ナル措置ト謂フ  
可カラサルナリ

更ニ又一步ヲ進メテ若シ主人ニ新陳交替アルハ  
輒チ其資財ノ小部分ヲ損シテ以テ自由ニ供スル所  
ノ犧牲ト爲サシメ至戚ノ人ノ相續ニ於ルト雖モ之  
ヲ遵守セシメテ譬ヘハ奴隸ノ十分ノ一ハ必ス之ヲ

民法論綱  
卷之五  
何止痛本

民法論綱

何氏稿反

解放セシムルカ如キ制度ヲ設クヘキナリ蓋シ新タ  
ニ他人ノ遺産ヲ相續スルモノハ未タ其真價ノ多少  
ヲ確知セサルニ依リ縱令其十分ノ一ヲ減セラル、  
モ其身ニ取りテハ唯ニソノ利益ノ一部ヲ得サルノ  
ミニシテ未タ已カ所有物ヲ損失スルカ如キ疾苦ヲ  
感覺セサルヘシ殊ニ甥姪ニシテ伯叔父ノ遺産ヲ相  
續スルカ如キハ則チ別ニ其父ノ遺産ノ儼然相續ス  
ヘキモノアルカ故ニ自由ノ元氣ヲ培養スルカ為メ  
ニ一層其稅歛ヲ厚クスルモ亦不可ナル所ナカルヘ  
シ

奴隸ニ自主權ヲ與フルハ拈闡法ニ依テ之ヲ定ムル  
ヲ要ス若シ否ラスニテ拔擢法ヲ用ユル時ハ乃チ最  
モ其功能アル者ヲ撰拔スルノ辭柄ヨリシテ終ニ奸  
謀詭術ノ胚胎スル所ト為リ從テ不平ノ心ヲ懷キ猜  
疑ノ念ヲ生スルモノ却テ自由ヲ得テ康福ヲ享ル者  
ヨリモ居多ナルニ至ラン○夫レ拈闡ノ法タル公平  
ニシテ偏頗ナク各人ヲシテ齊シク康福ヲ得ヘキノ  
良機ヲ得セシムルヲ以テ仮令不幸ニシテ中闡セサ  
ルモノアリト雖モ敢テ其希望心ヲ害スル一無ニ加  
フルニ若シ罪惡ヲ犯スモノハ此拈闡ノ特准ヲ奪フ

民法論綱 卷之五 何氏稿反

ト制定スルヲアラハ必ス其機ニ漏レニテ恐レテ  
益以テ忠勤誠實ヲ竭サシムルヲ得可シ

**原註**或ハ曰ク此策ニ據ルハ奴隸ハソノ速カニ  
解放ヲ得ニテ欲スルヨリ遂ニ主人ヲ弑スル等  
ノ惡逆ヲ行フモノアラニ是レ此拈闡法ノ大害ナ  
ルナカラシヤ否ナ拈闡法ハ決シテ其必中ノ預シ  
メ期シ難キモノナレハ此等ノ惡逆ヲ行フモ其果  
實ハ或ハ他人ノ占得スル所トナリ首謀者ハ却テ  
其利益ニ浴スルノ必ス可カラサルヲ以テ適其  
禍機ヲ減消スルヲ得可シ譬ヘハ更ニ法律ヲ以

テ若シ其主人タルモノ、奴隸ノ為メニ暗殺毒殺  
セラレ而シテ犯人分明ナラサルカ如キアラハ主  
人ニ新陳交替アリト雖モ奴隸ハ一切解放ノ特准  
ヲ得ヘカラスト制定スルニ於テハ啻ニ其禍機ヲ  
減消スルノミナラス又大ニ主人ノ安全ヲ増スノ  
良策タルヲ疑ヒナシ

解放ハ之ヲ各人ニ施サンヨリ寧口之ヲ一家族ニ施  
スニ若カス蓋シ父ハ自主民ニシテ其子ハ奴隸タリ  
子ハ自主民ニシテ其父ハ奴隸タルヲアラハ其憂樂  
ノ懸隔セル豈只天淵ノミナランヤ骨肉ノ情態實ニ

民法論

卷之五

第...

何...

痛...

見ルニ忍ヒサル所アルヘシ  
 其他解放ノ美譽ヲ慫慂スルノ方策ハ固ヨリ此ノ如  
 キノミナラスト雖モ預シメ其國ノ情實ヲ熟慮審察  
 スルニアラサレハ之ヲ發明シ能ハサルモノアリ  
 奴隸ノ縲紲ハ固ヨリ制法者ノ一擊シテ之ヲ斬斷ス  
 ヘキニアラサルモ然モ時運ノ進動スルアリテ漸ニ  
 其緊束窮屈ナルヲ鬆解シ而シテ自由ノ元氣ノ發達ハ  
 頗ル遲緩ナルカ如キモ駸々トシテ進行シテ止マサ  
 レハ終ニ心術開化道義富財貿易ノ步驟ニ從ツテ之  
 ヲ回復伸暢スルヲ得ルナラシ者ヨ今日魯西亞波

蘭及日耳曼ノ局部ニ流行スル所ノ弊習ハ亦昔時英  
 佛二國ノ閱歷セシ所ナリシヲ其ノ...  
 此變動アリト雖モ決シテ有地者ノ憂慮ヲ煩スニ足  
 ラサルハ是レ土地ヲ所有スルキハ必ス之ニ勞作シ  
 テ生計ヲ營ムヘキノ人民ヲ支配スヘキ自然ノ權利  
 アリテ相存スレハナリ彼ノ奴隸カ一タヒ自主ノ民  
 ト為ルヤ否ヤ忽チ其意ノ欲スル所ニ赴キテ敢テ郷  
 土ヲ眷戀セサルヨリ膏腴ノ地モ變シテ荒蕪ニ屬ス  
 可シト過慮スルハ奴隸ノ常ニ罅隙ヲ求メテ逃亡ス  
 ルヲ視テ自主ノ民ト為リシ後モ尚ホ然リトスルノ

民法論

卷之五

第...

何...

痛...



民法論綱 卷之五

何氏補

空想ニ出ルモノナリ、知ラスヤ奴隷ノ逃亡スルハ全ク羈轡ノ免ル可カラサルニ由ルモノニシテ若シ之ニ與フルニ自主ノ民タラシムルヲ以テセハ誰カ郷里ヲ眷戀スルノ心情ヲ生セサルモノアラシヤ況ヤ解放ノ舉ヲシテ徐々ニ成果ヲ求メテ一朝ノ躁進ニアラサラシムルニ於テヤ  
波蘭ノ地主ハ全ク一己ノ實益ノ所在ヲ識得セシニ由リシ乎或ハ榮譽ヲ希フノ心情ニ出テシモノ乎其實情、知ルヘカラスト雖モ一朝其土地ニ附屬セル數百ノ奴隷ヲ解放シテ之ヲ自主ノ民ト為セリ此ノ如

キ地主ハソノ寛仁大度ノ為メニ果シテ其富資ヲ減損セシヤ曰ク否ナ之ニ反シテ奴隷ノ自主民トナリシ後ハ皆ナ自己ノ勞作ニ食ムヲ以テ其工程ハ適カニ曩時ニ超過シ自主民ノ耕種スル土地ハ一歳ノ生産大ニ増加セリト云ヘリ

第三回 幼者及後見人

幼弱ハ未タ親ラ一事ヲ為スノ器量ナキヲ以テ其成立ニ至ルマテハ必ス他人ノ保護ニ依頼セサルヲ得ス形体ノカノ全ク完備ヲ得ルニハ數十年ヲ經過セサレハ能ハスノノ智識ノ發達ニ至テハ更ニ遼遠ニ

民法論 卷之五

何氏藏板

ニシテ已ニ一定ノ年齢ニ達スルキハ夫ノ膂力氣質ノ二者ハ稍具備スルヲ得ヘシト雖モ奈何セシ其事物ヲ經歷スルヲ甚タ稀疎ナルニヨリテ未タ以テ此二者ヲ節制スヘキノ實驗ヲ有セサレハ唯其感覺スル所ハ目前ノ事物ニ止マリテ絶エテ将来ヲ預慮スルヲ能ハス未成人ノ状態洵トニ斯ノ如キヲ以テ之ヲ管理スルニハ更ニ法律ノ作用ヨリモ一層親切ナル人物アリテ常ニ其左右ニ居リ賞罰ノ權ヲ執行シテ之ヲ勸懲シ教育ノ運行中ニ行為ノ節目ヲ指示セサル可ラス蓋シ法律ノ作用ノミニテハ時々間斷

アリテ始終ノ管理ヲ為シ能ハサルモノナリ未成人ノ為メニ其終身ノ地位ヲトシ或ハ其職業ヲ撰ムニ至テモ復タ必ス特殊ノ治者アリテ之ニ代リ其方向ヲ明示セサル可ラス而メ之ヲト選スルニ方テヤ須ラク當人一身ノ情實希望才能性情ト彼此ノ職業ヲ比較シテ其最モ適應シ而モ確乎トシテ成業ノ目途アル者トヲ審察熟慮シ然ラシテ後テ其去就ヲ決定スルヲ要ス○此ト撰ノ一事ハ頗ル繁瑣勞煩ナルモノニシテ固ヨリ宰官ノ得テ堪ユ可ラサルノ事由情實アルヲ以テ詳カニ之ヲ通知スルノ人ニア

民法論

卷之五

何氏藏板

民法論綱 卷之五 第百一十五號

ラナレハ断シテ判決シ能ハサル處ナリ  
親ヲ一身ヲ保護シ能ハス親ヲ一身ヲ管理シ能ハサ  
ル所ノ私人ヲ保護シ及ヒ之ヲ管理スルノ権柄ヲ後  
見人ノ職務ト謂フ○後見人ハ即チ一家ノ宰官ニシ  
テ其訓令ニ聽従スル者ノ為メ萬ニ缺ク可ラサルノ  
情由アルニ淵源シテ唯此目途ヲ達スルニ須要ナル  
権利ヲ付與セシモノナレハ苟モ其目途ヲ達スル  
ヲ得ハ則チ其職務ヲ終ユヘキモノナリ  
幼弱ヲ教育スルニ缺ク可ラサルノ権利ハ即チ其處  
世營業ノ道ヲ撰定シテ其住所ヲ一定スルト及ヒ之

ヲ懲戒スル手段ヲ得ルトノニ権ニシテ懲戒ノ手段  
ヲ得サレハ後見人ノ効用ヲ得能ハサルナリ○抑懲  
戒ノ手段ハ之ヲ施行スルニ方テ直接ノ効果ヲ生シ  
其事必定シテ之ヲ輕重寬嚴ニスルヲ得ヘク加フル  
ニ一家ヲ管理スルニ方テハ敢テ懲戒ノミニ頼ラサ  
ルモ褒賞ノ科目多々枚擧ニ違アラサルカ故ニ後見  
人ニ於テ懲戒ノ手段ヲ濫用シテ過酷ニ偏スルヲ  
防止スルニ甚タ容易ナリトス是レ年齢幼冲未タ一  
物ヲ得ルヲ能ハスレテ皆ナ之ヲ他人ニ仰クノ時ニ  
於テハ治者ノ為メニハ一物ノ微モ其褒賞ノ資トナ

民法論綱 卷之五 第百一十五號 可代反

民法論 卷之五 何氏藏本

ラサルモノナケレハナリ  
 幼弱ノ生計ノ如キ資テ以テ其需要ヲ充タスニ足ル  
 モノ三源アリ其一ハ已カ所有ノ財産ナリ其二ハ他  
 人ノ賑恤ナリ其三ハ自己ノ勞作ナリ  
 若シ幼者ソノ財産ヲ所有スル片ハ後見人タルヒ  
 乃チ幼者ノ姓名ヲ以テ之ヲ管理シテ専ラ幼者ノ利  
 益ヲ謀ルヘシ而シテ其措置スル所苟モ條規成例ニ違  
 ハサル以上ハ法律ニ於テ之ヲ承認セサル可ラス  
 若シ幼者已カ財産ヲ所有セサル片ハ後見人ノ費用  
 ヲ以テ之ヲ養育ス可シ父母ノ其子ニ於ル或ハ育嬰

院ノ孤児ニ於ルカ如キ是レナリ然ラサルモノハ已  
 カ勞作ヲ以テ其一身ヲ扶持スヘシ譬ヘハ習業ノ徒  
 弟ト為リテ一定ノ職業ニ從事シ他日ニ至テソノ勞  
 作ノ價ヲ以テ今日ノ糜費ヲ償還スルカ如キ是レナ  
 リ  
 後見ノ職務ハ勞且煩ニシテ其利僅少ナレハ自ラ好  
 テ此任ニ擔當シ而モ之ヲ勤ムルニ容易ナル者ヲ撰  
 定シテ從事セシムヘシ夫レ能ク此資格ヲ有スルモ  
 ノハ父母ヲ除キテ又他ニアルコト無キハ固ヨリ天倫  
 ノ慈愛アリテ自ラ其義務ニ响勞スルコト決シテ法律

民法論 卷之五 何氏藏本

民法論綱 卷之五 何路

ノ作用ト同日ノ論ニアラサルナリ然リト雖モ之ヲ  
自然ニ任セスレテ故サラニ法律ノ作用ヲ以テ之ヲ  
命シテ父母ノ義務ト為サシムル所以ハ蓋シ世間ニ  
親生ノ子女ヲ擲棄スルノ梟獍ナキニアラサルニ由  
リ棄兒ノ罪名全ク其跡ヲ社會ノ間ニ絶ツニ至ル迄  
ハ法律ニ於テ之ヲ以テ父母ノ義務トスルモ亦無用  
ノ擧ト謂フ可カラサルナリ  
若シ父タル者ソノ終焉ニ臨テ親ヲ後見人ヲ撰ミテ  
其孤兒ヲ托スルハ法律ヨリ之ヲ見テ其父ノ自ラ  
代理ノ任ヲ托スルニ方テ懲戒ノ手段ト慈愛ノ性情

トヲ有スルモノハ乃チ此後見人ヲ措キテ他ニ優ル  
モノアラスト為スカ故ニ別ニ著大ナル道理アリテ  
之ニ反對スルニアラサルヨリハ必ス其父ノ人撰ヲ  
以テ至當ノ後見人ト承認セサルヲ得ス  
若シ其父預メ後見人ヲ撰マサルハ則チ此義務ヲ  
將テ親戚ノ中ニテ或ハ其家ノ資産ヲ保存スルヲ以  
テ自己ノ利益ト為スカ或ハ其孤兒ヲ教育スルヲ以  
テソノ名譽ト為スカ否ナ愛情ノ然ラシムル所自ラ  
好シテ之ヲ擔當スルノ人ニ負荷セシメサルヲ得ス  
若シ斯ノ如キ親戚ナキハ則チ他人ニレテ平常其

民法論綱 卷之五 何路

孤児ヲ愛顧スル所ノ人物ヲ撰ミソノ好誼ニ依リテ  
 後見ノ職事ヲ務メシムルカ或ハ特ニ官吏ヲ置キテ  
 此職ヲ執行セシムルモ亦不可アルナシ  
 然リト雖モ其人ノ事情ニ由リ後見ノ職務ニ就ク  
 ヲ免除スルモノアリ是レ制法者ノ宜シク審慮スヘ  
 キ所ニシテ譬ヘハ年齢已ニ髦髻ニ至ルカ或ハ家族  
 衆多ナルカ或ハ身心完全ナラサルカ或ハ嫌疑ヲ避  
 ケシムルカ如キ是レナリ  
 後見人カ其権柄ヲ濫用スルニ方テ其之ヲ防クヘキ  
 方策ハ全ク刑法ノ範圍ニ屬スルカ故ニ宜シク治罪

法ヲ以テ之ヲ所斷スヘシ即チ後見人カ幼者ノ身ニ  
 對シテ其権ヲ濫用スルハ身体ヲ害スルノ律文ヲ以  
 テ之ヲ罰スヘシ幼者ノ財産ヲ霸佔シテ私利ヲ計ル  
 モノハ欺詐取財ノ律ニ擬スヘシ○其他後見人ヲ懲  
 治スルニ尋常ノ法律ヲ以テス可ラサルノ罪惡ハ彼  
 ノ信任ヲ破ルノ一事ニシテ此罪ハ極メテ惡ムヘキ  
 モノト雖モ然モ之ヲ犯ス者後見人ハ衆目ノ注視スル  
 地位ニ在ルカ故ニ忽チ發覺シテ之ヲ掩フヲ能ハス  
 又之ヲ報復スルニ容易ナレハ其後患トナルヘキ事  
 由甚タ尠キヲ以テ其罰ヲ嚴ニスヘキノ道理ヨリモ

民法論 卷之五 何氏藏

寧口之ヲ輕クスヘキモノ居多ナリトス但シ拐騙ノ罪ニ至テハ後見人ノ名義ノ存スル處乃チ他人ニ比スレハ其罪一層深重ナルモノナリ  
 弊害ヲ未然ニ防カンカ為メニ往々後見ノ職ヲ折半シテ之ヲ二人ニ分任セシムル一アリ乃チ治産ノ權ヲ以テ之ヲ其財産ヲ相續シ得ヘキノ親戚ニ托スヘシ是レ此人ハ他日或ハ之ヲ相續シテ已ノ利益トナルヲ以テカヲ竭シテ之ヲ改良ス可シ他ノ一人ハ即チ孤兒ノ福利ニ依頼スルヲ以テ其利益トスル所ノモノニ其身体ノ看護ヲ托スル是レナリ

或ル制法者ハ更ニ一步ヲ進メテ幼弱ヲ保護スルノ餘地ヲ設ケンカ為メニ後見人ニ幼者ノ財産ヲ買フ一ヲ制禁シ或ハ之ヲ買フモ幼者成丁ノ後一定ノ年限中ハソノ已ニ賣與セル財産ヲ買ヒ戻ス一ヲ准許セリ此ニ策ノ中第一策ハ敢テ大害ヲ生スルニ至ラサルモ第二策ニ至テハ為メニ幼者ノ利益ヲ損害スルニ過キサルヘシ何トナレハ幼者ハ成丁ノ後ニ於テ尚ホソノ曾テ賣却セシ土地ヲ買ヒ戻スノ權利アレハ則チ之ヲ買ヒ得タル者ノ所有權ハ全ク未定不穩ノモノニ屬シテ其位價ハ必ス低下セサルナク又

之ヲ買ヒ得ルモ若シ修良ヲ加ヘテ其位價ヲ増セハ  
 則チ前ノ賣主者幼ノ心ヲ誘掖シテ之ヲ買ヒ戻スノ念  
 頭ヲ發作セシメ却テ買主ノ不利ト為ルヲ知リ故  
 ラニ之ヲ荒蕪ニ委シテ顧ミサルニ至ル可シ故ニ若  
 シ一層思慮ヲ進メテ凡ソ幼者ノ財産ヲ賣却スルニ  
 ハ必ス公賣ノ法ニ限リテ之ヲ許可シ而メ宰吏ヲシ  
 テ之ヲ監察シテ後見人ノ奸猾ヲ抑止セシムルニ至  
 ラハ此二策ノ如キ亦之ヲ制定セサルモ更ニ不可ア  
 ル所ナカラシムルニ最モ簡便ニシテ輒ク行ハレ易キ方策  
 之ヲ要スルニ最モ簡便ニシテ輒ク行ハレ易キ方策

ヲ欲セハ奸猾ノ後見人アリテ幼者ノ財産ヲ侵蝕シ  
 或ハ其職務ヲ怠慢シ或ハ壓制ノ行為アルニ方テハ  
 何人ヲ問ハス苟モ見聞スル者ハ幼者ヲ保護セシカ  
 為メニ直チニ法庭ニ出テ、其無狀ヲ訴ヘシムルニ  
 在リ是レ自ラ其身ヲ保チ能ハサルノ幼弱ヲシテ偏  
 ニ法律ノ作用ニ依リテ社會中ノ慷慨任俠ナル人士  
 ニ依頼シ其庇蔭ニ憇ヒ以テ後見人ノ壓制奸謀ヲ免  
 レシムルモノナリ  
 夫レ幼者ハ自ラ一身ヲ治ムルヲ能ハサレハ常ニ他  
 人ニ依從セサルヲ得サルノ身分ナルカ故ニ其地位



固ヨリ不利ヲ免レサルナリ然ルヲ以テ苟モ後見人  
ノ管理ヲ脱シテモ更ニ著大ナル危害ヲ生セサルノ  
年齢ニ達セハ速ニ自主權ヲ受用セシメサルヘカラ  
ス然ラハ則チ幾多ノ年齢ヲ以テ自由ヲ得ルノ期限  
ト定ムヘキヤ、曰ク世上ノ大勢ヲ推測シテ此問題ニ  
答フルアルノモ我カ英國ノ法律ハ二十一年ヲ以テ  
成丁ノ定期トナセリ之ヲカノ羅馬ノ二十五年ヲ以  
テ定期トナシ而シテ歐洲諸邦ノ之ニ因循シテ遂ニ今  
日ノ法律トナルモノニ比較スルハ公更ニ事理ニ適  
當セルモノト謂ツテ可ナリ何トナレハ人生二十一

歳ニ到レハ智識全ク發達シ自ラ其力量ヲ知リテ負  
恃スル處アレハ父保ノ威推ニ服従スルヲ屑シトセ  
ス唯其忠告ヲ聽納スルノミニシテ決シテ束縛ノ困  
屈ニ堪ヘサルモノナレハナリ夫レ壯年ノ血氣斯ノ  
如ク甚タ盛ナルカ故ニ若シ管理ノ權長久ニ過クル  
ハ一家忽チ怨惡畢矣ノ淵藪ト爲リ父子兄弟齊シ  
ク其害ニ罹ルニ至ラン然レモ邦土ノ大ナル衆庶ノ  
多キ往々終身其智識ヲ發達シ能ハス或ハ發達スル  
モ著シキ晩成ノモノナキニアラサレハ斯ル人物ノ  
爲メニハ特ニ一種ノ變則ヲ設ケテ後見人ノ任期ヲ



